

Oracle VMについてのFAQ

概要

オラクルの発表した製品は何ですか。

オラクルは、Oracle アプリケーションと Oracle 以外のアプリケーションを完全にサポートするサーバー仮想化ソフトウェアの新製品 Oracle VM を発表しました。Oracle VM は、他のベンダーから提供されている既存のサーバー仮想化製品よりも効率性が 3 倍向上したスケーラブルかつ低コストのサーバー仮想化を実現します。

オラクルは、Oracle VM を使用した Oracle Database、Oracle Fusion Middleware、および Oracle Applications を含む主要な Oracle 製品の認定 (サーティフィケーション) も発表しています。オラクルのワールドクラスのサポート部門が、Linux オペレーティング・システム、Oracle Database、Oracle Fusion Middleware、および Oracle Application ソフトウェアを含む仮想化環境全体についてワンストップでサポートします。

Oracle VM は、2007 年 11 月 14 日水曜日より oracle.com/virtualization からダウンロード可能となり、無償で入手できます。ゲスト OS として Linux および Windows をサポートします。

Oracle VM とは何ですか。

Oracle VM は、Oracle アプリケーションと Oracle 以外のアプリケーションをサポートするスケーラブルかつ低コストのサーバー仮想化を実現するソフトウェアです。オープン・ソースのサーバー仮想化・ソフトウェアと統合された Web ブラウザ・ベース管理コンソールで構成されている Oracle VM は、x86 および x86-64 ベースのシステムで実行され、企業全体の仮想サーバー・プールの作成および管理を行う使いやすいグラフィカル・インタフェースを提供します。

ユーザーは、同じ物理サーバーに存在しながら独立した物理サーバーのように動作する仮想マシン (VM) を作成および管理できます。Oracle VM で作成した各仮想マシンには、固有の仮想 CPU、ネットワーク・インタフェース、ストレージ、およびオペレーティング・システムがあります。Oracle VM によって、ユーザーは、VM の作成、クローニング、共有、構成、ブート、および移行をブラウザ・ベースの管理ツールで実行できます。

オラクルが Oracle VM を提供するのとはなぜですか。

オラクルには、グリッド・コンピューティングを通じて低コスト・ハードウェアを利用できるようにした長年にわたる歴史があります。オラクルは、次のようないくつかの重要なグリッド・コンピューティング・テクノロジーを開発しました。

- Oracle Real Application ClustersおよびOracle Fusion Middlewareクラスタリング
- Oracle Automatic Storage Management
- Oracle Enterprise Manager Grid Control

Oracle VM も主要なグリッド・テクノロジーです。Oracle VM を使用すると、物理サーバーの構成やサーバーごとのソフトウェアのインストールを実行しなくても、グリッドにアプリケーションを簡単かつ効率的に配置できます。また、非常に少ないオーバーヘッドで仮想マシンを統合して、サーバーを効率的に利用できます。これによって、電気、床面積、ハードウェア・コストを節約します。Oracle VM では、Oracle VM の「ライブ・マイグレーション」を使用して停止時間を発生させずに、アプリケーション専用の物理サーバー・リソースを移行できます。

Oracle VM によって、オラクルは、仮想化、Linux、データベース、ミドルウェア、およびアプリケーション製品の統一されたフル・スタック・サポートとともに、グリッド・コンピューティングの統合されたクラスタリング、仮想化、ストレージ、および管理を提供します。オラクルは、サーバーの仮想化に対する企業ユーザーの要求を認識して、Oracle 製品の認定とともにワールドクラスのサポート部門によってサポートされる Oracle VM を提供します。オラクルは、完全なグリッド・コンピューティング・インフラストラクチャを提供するサーバー・クラスタリングおよびサーバー仮想化テクノロジーの利点を統合する唯一のソフトウェア・ベンダーです。

どの業界ベンダーが Oracle VM をサポートしていますか。

現在、AMD、Dell、Emulex、HP、Intel、Liquid Computing、NetApp、Pillar Data Systems、および Qlogic を含む非常に多くのインフラストラクチャ・ベンダーが Oracle VM と連携する製品をサポートしています。また、オ

ラクルは、他の多くの戦略ベンダーと密接に連携して、このようなパートナーシップを今後も重視します。

Oracle が提供する Oracle VM サポートの内容は何ですか。

Oracle は、次のサポートを提供します。

- 無償のインストール可能なバイナリ、Oracle VM の提供
- Unbreakable Linux Network (ULN) による、パッチ、修正プログラム、および更新へのアクセス
- 世界最大の企業ソフトウェアのサポート部門による24時間365日のグローバル・サポート

Oracle VM は誰が使用できますか。

Oracle 製品およびサード・パーティ・アプリケーションのどちらを使用しているか、すべてのユーザーが Oracle VM のサポートを Oracle から利用できます。

価格とライセンス

Oracle の Oracle VM サポートの価格はいくらですか。

Oracle VM ソフトウェアは、無償でダウンロードできます。Oracle VM サポートの価格設定はシンプルで、以下のようにシステムごとに計算されます。

	最大 2 個の物理 CPU (ソケット) を備えたシステムごとの年間費	無制限の物理 CPU (ソケット) を備えたシステムごとの年間費	詳細情報
インストール可能なバイナリ (サーバーおよびマネージャの両方) とソース (サーバー用)	無料	無料	無償のインストール可能なバイナリおよびソースは、 oracle.com/virtualization からオンラインで入手できます。
Oracle VM Premier Support (1 年)	¥62,400	¥124,900	Unbreakable Linux Network からのソフトウェアおよび更新へのアクセス、24 時間 365 日のグローバル・サポート
Oracle VM Premier Support (3 年)	¥187,100	¥374,600	ネットワーク・アクセスと 24 時間 365 日のグローバル・サポート

注：複数のコアまたはハイパースレッドを使用したモノリシック集積回路は、システムの物理 CPU の総数を決定する際に単一の物理 CPU としてカウントされます。詳細は、『[Oracle VM Pricing Guide](#)』を参照してください。

尚、日本でのサービス提供開始時期および最新の価格は、日本 Oracle の公式サイトでご確認下さい。

Oracle VM と一緒に使用する Oracle 製品の価格とライセンスについて教えてください。

Oracle VM と一緒に使用する Oracle 製品の価格とライセンスは変更ありません。Oracle は、ライセンス・プログラムをインストールおよび実行する物理プロセッサをカウントしてライセンスを許諾します。

Oracle は知的財産権の侵害請求からユーザーを補償していますか。

はい。知的財産権の侵害に対する包括的な Oracle の補償によって、ユーザーは、安心して Oracle VM を配置できます。

機能および利点

Oracle VM の利点は何ですか。

Oracle VM には、以下の利点があります。

- 効率性の向上 - 他の主要なサーバー仮想化製品よりも3倍高い効率性
- サーバーの統合と効率的なリソースの利用
- 低価格
- 場所、冷却、電気などの節約による総所有コスト（TCO）の削減と投資回収率（ROI）の向上
- 本番環境を処理できる高性能のサーバーの仮想化
- 世界最大のソフトウェア・サポート部門による統合された完全なサポート
- グリッド・コンピューティングとサーバーの仮想化を統合した利点
- Oracle Database、Oracle Fusion MiddlewareおよびOracle Applicationsの認定（サーティフィケーション）
- オラクルからの完全な補償によるリスクの緩和
- 簡素化されたインストール - 単一のCDによるサーバー・インストール、1分以内のインストールおよび構成
- Oracle DatabaseおよびOracle Enterprise Linuxの事前に構成されたVMテンプレートによる高速な配置

Oracle VM の技術的な利点は何ですか。

Oracle VM は、短時間で作業環境またはアプリケーションをプロビジョニングできます。これによって、インフラ構築に伴う時間を大幅に短縮できます。Oracle VM は、作成、カスタマイズ、共有、管理、および配置を含む VM の完全なライフサイクルを簡単に管理できます。Oracle VM には、以下の利点もあります。

- 現在のx86ベースのサーバー仮想化製品よりも3倍高い効率性
- 物理サーバーの効率的な利用
- 再構成しないで特定の物理ホストから別の物理ホストに動作している仮想マシンを移動する機能
- リソースの一元管理
- パラメータを構成する使いやすいWebインタフェース
- サーバー中心 - Oracle VMは、データ・センターで実行できるように設計
- リソースを完全に利用するロード・バランシング
- 簡単なテンプレートの作成 - 誰でも簡単にテンプレートからVMを作成できます（テンプレートを使わずに作成することもできます）
- 特殊なソフトウェアは必要なく、Webブラウザだけで管理

既存の x86 サーバー仮想化製品よりも Oracle VM の効率性が 3 倍高い点について教えてください。

オラクルは、Oracle VM と連携している Oracle 製品と既存の主要なサーバー仮想化製品を比較した多くのパフォーマンス・ベンチマークを実行しました。また、x86 および x86-64 上の仮想化されていないオペレーティング・システムの Oracle 製品とも比較しました。オラクルは、Oracle VM を使用するとオーバーヘッドが平均して3分の1になり、非常に効率的にリソースが利用されることを一貫して確認しました。また、仮想 SMP を使用するとスケーラビリティが向上することも確認しました。多くの場合、実際のハードウェアと比較すると、パフォーマンスがほぼ同じになりました。

Oracle VM を使用すると Oracle On Demand にはどのような利点がありますか。

Oracle On Demand は、サブスクリプションまたは管理単位ごとに使用できるアプリケーションのアウトソース・サービスを提供します。Oracle VM によって、Oracle On Demand で構築されたグリッド環境内にサーバーの仮想化が導入されました。Oracle On Demand への仮想化の導入によって、各構成を最適化し、これらのサーバー仮想化の機能を完全に活用し、場所、電気、および冷却の大幅な節約による利点が得られます。

技術的な詳細

どの Oracle 製品が Oracle VM に対応していますか。

Oracle VM に対応する Oracle 製品は、以下のとおりです。オラクルのお客様は、Oracle MetaLink Note 464754.1 から最新情報を取得できます。

- Oracle Database 10g Release 2およびOracle Database 11g Release 1
- Oracle Application Server 10g Release 2および10g Release 3
- Oracle Enterprise Manager 10.2.0.4
- Oracle Berkeley DB 4.6
- Oracle TimesTen 7.0.3.1
- Oracle E-Business Suite 11.5.10および12
- Oracle PeopleSoft Enterprise 8.4.xおよび9.0
- Oracle PeopleSoft PeopleTools 8.49.07以上
- Oracle Siebel CRM 8.0
- Oracle Hyperion 9.3.1

Oracle Real Application Clusters はテスト中で、2008 年（暦年）に Oracle VM に対応する予定です。

顧客はどのように Oracle VM 環境を管理できますか。

ブラウザ・ベースの管理ユーティリティは、追加料金なしで Oracle VM に付属されています。

Oracle Enterprise Manager は、アプリケーションからオペレーティング・システムまでを管理するエンドツーエンドの管理機能を提供します。Oracle Enterprise Manager は、これらの機能を拡張して、2008 年（暦年）に Oracle VM を管理する機能を装備する予定です。

Oracle VM をダウンロードできますか。

はい。Oracle VM は、2007 年 11 月 14 日水曜日より oracle.com/virtualization から自由にダウンロードできます。

Oracle VM と Oracle Enterprise Linux にバンドルされている仮想化機能との違いは何ですか。

Oracle Unbreakable Linux サポート・プログラムの一部として、オラクルは、Oracle Enterprise Linux 5 に含まれる仮想化機能をサポートします。この環境での Oracle 製品の実行はサポートされていないので注意してください。仮想環境で Oracle 製品を配置する場合は、Oracle VM を使用し、Oracle VM サポートに申し込む必要があります。オラクルのお客様は、Oracle MetaLink Note 466538.1 を参照してください。

Oracle VM にホスト・オペレーティング・システムは必要ですか。

いいえ。Oracle VM は、サーバー・ハードウェアに直接インストールするので、ホスト・オペレーティング・システムは必要ありません。

どのようなゲスト・オペレーティング・システムが Oracle VM でサポートされていますか。

Oracle VM は、以下のゲスト・オペレーティング・システムをサポートします。

- Oracle Enterprise Linux 4およびOracle Enterprise Linux 5
- RHEL3、RHEL4、およびRHEL5
- Windows 2003、Windows Server 2003、およびWindows XPは、HV対応のハードウェアでサポートされます。

サポートされているゲスト・オペレーティング・システムの構成の詳細については、製品ドキュメントを参照してください。

Oracle VM でサポートされているハードウェアは何ですか。

Oracle VM には、少なくとも i686 クラス・プロセッサを装備した 32 ビットまたは 64 ビットのホストが必要です。これには、すべての Intel Pentium Pro 以降の新しいモデルとすべての AMD Athlon/Duron プロセッサ以降の新しいモデルが含まれます。最低でも Pentium 4 または Athlon CPU が推奨されています。

未修正のゲスト・オペレーティング・システムの場合、ハードウェアの仮想化をサポートする CPU が必要です。これには、Intel Pentium D/Core/Core2/Xeon モデルと AMD Athlon/Opteron モデルが含まれます。詳細は、プロセッサ・ドキュメントおよび Oracle VM 製品ドキュメントを参照してください。

Oracle VM で実行する Microsoft Windows のパフォーマンスは Oracle VM で実行する Enterprise Linux のパフォーマンスと同じですか。

いいえ。現在、Oracle VM を使用すると、ネイティブ・ハードウェアよりも Microsoft Windows の実行速度が大幅に遅くなります。ただし、オラクルは、Oracle VM で実行する Windows のパフォーマンスを大幅に向上させる準仮想化した Windows ドライバを開発中です。

サポートの詳細

オラクルは他の x86 サーバー仮想化環境の Oracle 製品を使用している顧客をサポートしますか。

Oracle VM は、Oracle 製品がサポートされている唯一の x86 ベースのサーバー仮想化環境です。オラクルのお客様は、Oracle MetaLink Note 249212.1 で詳細をご覧ください。

パッチや更新にはどのようにアクセスすればよいですか。

Oracle VM のパッチや更新は、[Unbreakable Linux Network](#) (ULN) から取得できます。ULN は、Oracle Unbreakable Linux サポート・サブスクリプションおよび Oracle VM サポート・サブスクリプション向けの包括的なリソースです。ULN では、ソフトウェアのパッチ、更新、および修正プログラムにアクセスできます。ULN にアクセスするには、Oracle VM のサポートを購入すると取得できる有効なカスタマ・サポート識別子 (CSI) が必要になります。

Windows および Oracle VM に関する Microsoft 社のサポート・ポリシーを教えてください。

『マイクロソフト以外のハードウェア仮想化ソフトウェアでマイクロソフトのソフトウェアを実行する場合のサポート ポリシー』ドキュメント (support.microsoft.com/kb/897615) を参照してください。

追加情報

Oracle VM の詳細は、oracle.com/virtualization を参照してください。

Copyright 2007 Oracle. All Rights Reserved. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否定し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、およびRetekは、米国Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。